傾聴ボランティア

「あいりす」通信

第 27 号

〒682-0025 倉吉市八屋 301-1
はーとぴあ創造内　あいりす事務所
電話番号 0858-24-5378
携帯電話　090-2804-8014（竹森）
E-mail:ailis@heart-ailis.com
http://www.heart-ailis.com

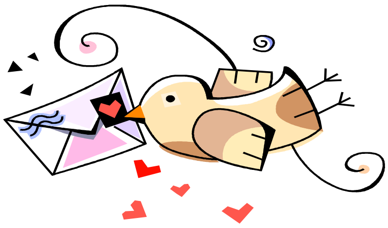
10 月 8 日（木）13:30～16:00 平成 27 年度傾聴ボランティア養成講座(第二回) ＆定例研修会の開催

場所：倉吉福祉センター
２階：中会議室
福吉町電話 22-5248

①講座：１３：３０～１５：００
講師：田村　勲ＮＰＯ法人ＣＡＰＴＡ理事
演題：傾聴の心・伝わる心

傾聴の大切さは分かっていて、頑張って聴こうとしてもうまくいかないものです。なぜなら傾聴するためには、相手の気持ちをその人の身になって理解するための理論と技術が必要ですから。講師は長年、相談援助活動してこられました。その体験に基づいた傾聴の話が聞けると楽しみにしています。是非、参加をしましょう。

②10 月定例研修会：１５：００～１６：００
・事務局からの連絡
・会員同士の意見交換等



２か月に１回の定例研修会です。会員同士の話し合いが「あいりす」の力になります。
新しい会員が増えました。出席して会員同士が仲良くなりましょう。

確かな未来

－超高齢・少子・人口減少・単身社会、そして元気な高齢者―

現代の課題の一つは超高齢社会の対応である。今を生きる中高年は新しい町高齢社会文化を創造していく役割を背負わされている。樋口恵子高齢社会をよくする女性の会理事長は課題を理解する５つのキーワードを挙げておられる。

①人生１００年時代
②ファミレス社会（家族のいる人が少ない）
③大介護時代
④ワーク・ライフ・ケア・バランス
⑤男女共同参画

大介護時代のにっぽん崩壊を防ぐには、根本的には高齢者介護費用を公共事業、人間の安全保障費として計上するのが第一の前提である。同時に、その大介護の高波を少しでも低くし、要介護となる時期を少しでも遅らせ、かつ短くすること。平均寿命と健康寿命の差を縮小することは、個人的にも社会的にも望ましい。

高齢者の健康増進には、栄養、運動、社会参加が三大要素だと言われている。

〈参考文献「2050 年超高齢社会のコミュニティ構想」岩波書店〉

☆傾聴のポイント
・しゃべらずに話を聴くだけでは傾聴にならない。傾聴は、心を開いてリラックスし、積極的に耳を傾けること。

訃報

種部充恩さんが８月９日にお亡くなりになりました。「あいりす」の会員として、ボランティア活動を積極的に取り組まれる姿に、私たちは励まされ・かつ元気を頂いていました。非常に残念でたまりません。
ご冥福をお祈りします。

編集後記

あの暑さが嘘のよう。秋の風が吹き、稲の穂も頭を垂れる季節になりました。

1 事務局でも「最近種部さんの姿を見ないね」と話していた矢先の訃報に驚きと悔しさ・悲しさ・寂しさいろんな気持ちがうごめいています。

2 養成講座の開講式を９月１０日行いました。記念講演の原田先生のユーモアあふれるお話に笑いぱなし。これで免疫力もアップ。竹森会長の挨拶の１００歳まで生きる　とっておきの方法と重なって元気になった記念講演でした。

3 会員のつぶやき今回はお休みです。次回をお楽しみに・・

4 「あいりす」通信に載せる情報・アイデアをお願いします。（I・H）